



安全データシート

この安全データシートは以下の要件に準拠している:
JIS Z 7252:2019; JIS Z 7253:2019

改訂日 2026/06/11
改訂番号 1

1. 化学品及び会社情報

化学品の名称 WL-620 WASH

製品コード WL-620

登録番号 該当しない

安全データシートの供給者の詳細

供給者
ブラザーインダストリアルプリンティング株式会社
東京都大田区西蒲田8-20-8 アゼル3号館
電話番号 :03-3736-2731

緊急連絡電話番号 緊急電話: +44 207 858 0111 (24時間、英語のみ)

電子メールアドレス bipj-dominosds@brother.co.jp

化学品の推奨用途及び使用上の制限

推奨用途 印刷用インク関連物質
。

使用上の制限 産業用途専用

2. 危険有害性の要約

GHS 分類

世界調和システム(GHS)による危険物有害性の物質でも混合物でもない

急性毒性(経口)	分類できない
急性毒性(経皮)	分類できない
急性毒性(吸入) - ガス	区分に該当しない
急性毒性(吸入) - 蒸気	分類できない
急性毒性(吸入) - 粉じん/ミスト	区分に該当しない
皮膚腐食性/刺激性	分類できない
眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性	分類できない
呼吸器感作性	分類できない
皮膚感作性	分類できない
生殖細胞変異原性	分類できない
発がん性	分類できない
生殖毒性	分類できない
授乳に対する又は授乳を介した影響	分類できない
特定標的臓器毒性(単回ばく露)	分類できない
特定標的臓器毒性(反復ばく露)	分類できない
誤えん有害性	分類できない
水生環境有害性 短期(急性)	区分に該当しない
水生環境有害性 長期(慢性)	分類できない
オゾン層への有害性	分類できない

GHSラベル要素**危険有害性情報**

世界調和システム(GHS)による危険物有害性の物質でも混合物でもない

注意書き**安全対策**

- ・ 取扱い後は手をよく洗うこと
- ・ 保護手袋／保護衣及び保護眼鏡／保護面を着用すること

応急措置

- ・ 該当しない

保管

- ・ 換気の良い場所で保管すること。容器を密閉しておくこと

廃棄

- ・ 内容物／容器を適用される現地、地域、国、及び国際規則に従って廃棄すること

他の危険有害性

情報なし。

3. 組成及び成分情報**化学物質・混合物の区別**

混合物

化学名又は一般名	CAS番号	重量%	化審法インベ ントリ	化審法番号	安衛法インベ ントリ	安衛法番号
エチレングリコール	107-21-1	3 - <10%	既存	(2)-230	既存	(2)-230

当製品は、特定標的臓器毒性(反復ばく露)区分2に分類される成分を1.0%以上10%未満含有している。

化学物質排出把握管理促進法(PRTR法)

該当しない

労働安全衛生法**通知対象物質**

法第57条の2、施行令第18条の2第1号、第2号別表第9及び第3号別表第3

危険性又は有害性等を調査すべき危険有害物

法第57条の3

化学名又は一般名	規則名称	CAS番号	施行日
エチレングリコール	エチレングリコール	107-21-1	

表示対象物質

法第57条第1項、施行令第18条第1号、第2号別表第9及び第3号別表第3

化学名又は一般名	規則名称	CAS番号	施行日
エチレングリコール	エチレングリコール	107-21-1	

毒物及び劇物取締法

該当しない

4. 応急措置**吸入した場合**

ばく露又はばく露の懸念がある場合: 医師の診察／手当てを受けること。意識のある吸入被災者

	に手を貸して汚染されていない区域に避難させ、新鮮な空気を吸わせること。呼吸が困難な場合には、(資格のある者が)酸素吸入を行うこと。
皮膚に付着した場合	皮膚を石けん(鹸)と水で洗うこと。
眼に入った場合	上下のまぶた(瞼)を持ち上げながら最低15分間多量の水でよく洗うこと。医師に相談すること。
飲み込んだ場合	口をすすぐこと。
急性症状及び遅発性症状の最も重要な徴候症状	情報なし。
医師に対する特別な注意事項	症状に応じて治療すること。

5. 火災時の措置

適切な消火剤	現地の状況及び周囲環境に適した消火方法を用いること。
使ってはならない消火剤	高圧水で漏出物を散乱させないこと。
特有の危険有害性 危険有害性燃焼生成物 爆発性	情報なし。 熱分解または燃焼した製品は次の物質を含むおそれがある：有害なガスまたは蒸気。一酸化炭素(CO)。二酸化炭素(CO ₂)。。 爆発物ではない。
特有の消火方法	水噴霧でドラムを冷却すること。
消火活動を行う者の特別な保護具及び予防措置	防火服又は防災服を着用すること。水生環境への放出を防止すること。消火活動からの流去水が排水路又は水路に流れ込まないようにすること。水質汚染のリスクが生じた場合には、管轄官庁に通報すること。
その他の情報	警告：放水では十分な消火の効果が得られない場合がある。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置	人員を安全な区域に退避させること。指定された個人用保護具を着用すること。詳細については項目8を参照。皮膚、眼又は衣類との接触を避けること。十分換気されているか確認すること。人員を漏出／漏えい(洩)の風上に遠ざけること。全ての着火源を排除すること(近接区域は禁煙とし、裸火、火花又は火炎を排除すること)。フラッシュバックに注意すること。静電気放電に対する予防措置を講ずること。漏出物に触れたりその上を歩いたりしないこと。
緊急対応を行う者のための保護具	項目8で推奨されている個人用保護具を着用すること。
環境に対する注意事項	製品が排水路に入らないようにすること。環境中に放出してはならない。水生生物に対して有害であり、水生環境中で長期にわたり悪影響を及ぼすことがある。液体漏出物を砂、土又はその他の不燃性の吸着材料で覆うこと。環境汚染(下水道、水路、土壌または大気)が発生した場合には関係官庁に報告すること。
封じ込め方法	リスクを伴わずに可能ならば漏えい(洩)を止めること。漏出物に触れたりその上を歩いたりしないこと。蒸気抑制泡を使用して蒸気を減らすことができる。流去水を回収するために液体流出物のかなり前方に堤防を築くこと。排水路、下水溝、排水溝、水路に入らないようにすること。漏出物を封じ込め、不燃性の吸収材料(砂、土、ケイソウ土、パーミキュライトなど)で吸収して容器に入れ、現地／国の規制に従って廃棄すること(項目13を参照)。
浄化方法	回収して適切に表示された容器に移すこと。
二次災害の防止策	汚染された物体及び区域を環境規則に従って十分に浄化すること。

参照すべき項目

項目8で推奨されている個人用保護具を着用すること。追加的な有害性情報については項目11を参照。詳細については項目13を参照。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い

安全取扱注意事項

産業衛生安全対策規範に従って取り扱うこと。

保管

安全な保管条件

容器を密閉して乾燥した涼しく換気のよい場所に保管すること。

8. ばく露防止及び保護措置

許容濃度

化学名又は一般名	日本産業衛生学会	労働安全衛生法 作業環境評価基準 - 管理濃度	ACGIH TLV
エチレングリコール 107-21-1	-	-	TWA: 25 ppm vapor fraction STEL: 50 ppm vapor fraction STEL: 10 mg/m ³ inhalable particulate matter, aerosol only

生物学的モニタリング指標

この製品は、供給されたままの状態なら、地域独自の規制団体が制定した生物学的制限値が設定された危険有害物質を一切含んでいない

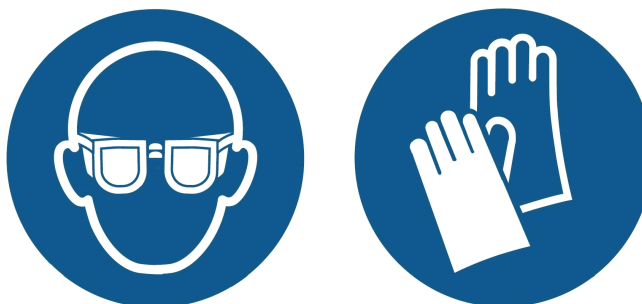
設備対策

設備対策を使用してばく露をOEL又はDNEL未満に維持すること。特に密閉区域内では、十分な換気を確保すること。

環境ばく露防止

いかなる下水管の中、地面上又はいかなる水域中にも侵入させないこと。容器を密閉しておくこと。

保護具



呼吸用保護具

労働者がばく露限界値を超える濃度にさらされる場合には、認証を受けた適切な呼吸用保護具を必ず使用しなければならない。十分換気されているか確認すること。

リスクアセスメントで皮膚接触の可能性が示された場合は、認定基準に適合した耐薬品性で不浸透性の手袋を着用する必要があります。化学物質から手を保護するために、当社推奨の手袋を使用することができます。手袋の素材の突破時間に関する情報を提供できる手袋のサプライヤーまたは製造業者に相談して、適切な代替手袋を選択することも可能です。

眼及び／又は顔面の保護具 サイドシールド付き保護眼鏡(又はゴーグル)を着用すること。

皮膚及び身体の保護具 特別な保護具は必要とされない。

9. 物理的及び化学的性質

物理的及び化学的性質に関する情報

外観	液体	
物理状態	液体	
色	無色透明	
臭い	情報なし	
臭いのしきい値	情報なし	
特性	値	備考・方法
融点／凝固点	0 °C / 32 °F	データは製品の主成分に対するものである
沸点又は初留点及び沸点範囲	= 100 °C / 212 °F	@ 760 mm Hg
可燃性		不燃性
爆発下限界及び爆発上限界／可燃限界		
爆発又は可燃の上限界		
爆発又は可燃の下限界		
引火点		
蒸発速度		
自然発火点		
分解温度		
pH		
粘度		
動粘性率		
動的粘度		
水への溶解度	水と混和	
溶解度		
n-オクタノール／水分配係数(log値)		
蒸気圧	2.34 kPa @ 20°C	
密度及び／又は相対密度		
相対密度	1	
蒸気濃度	情報なし	
かさ密度	情報なし	
相対ガス密度	> 1	
粒子特性		該当しない 液体
粒径		該当しない 液体
粒径分布		

その他の情報

爆発性	爆発物ではない
酸化性	酸化性物質の分類基準を満たさない。
揮発性有機化合物	5.00%, 0.050kg/L。

10: 安定性及び反応性

反応性 酸化剤、ハロゲン及び酸と発熱しながら反応する。

化学的安定性 通常の条件下で安定。

危険有害反応可能性	酸化剤、ハロゲン及び酸と発熱しながら反応する。
避けるべき条件	情報なし。
混触危険物質	酸化剤、ハロゲン及び酸と発熱しながら反応する。
危険有害な分解生成物	通常の使用条件下ではない。熱分解すると刺激性及び有毒なガス及び蒸気を放出する可能性がある。二酸化炭素(CO2)。一酸化炭素。
その他の情報	溶剤系インクとUV硬化型インクを混ぜないでください。可燃物と混合を回避するために予防策をとること。廃棄物処理。
爆発データ	
静電放電に対する感度	なし。
機械的衝撃に対する感度	なし。

11. 有害性情報

急性毒性

毒性の数値尺度 - 製品情報

以下の値はGHS文書の第3.1章に基づいて算出されている

ATEmix(経口)	10,000.00 mg/kg
ATEmix(経皮)	99,999.00 mg/kg
ATEmix(吸入 - 蒸気)	99,999.00 mg/L

毒性の数値尺度 - 成分情報

急性毒性(経口)

化学名又は一般名	パラメーター	有効量	種	方法	備考
エチレングリコール	LD50	7712 mg/kg	ラット		

急性毒性(経皮)

化学名又は一般名	パラメーター	有効量	種	方法	備考
エチレングリコール	LD50	>3500 mg/kg	マウス ラット		

急性毒性 - 吸入

化学名又は一般名	パラメーター	有効量	ばく露時間	種	方法	備考
エチレングリコール	LC50	>2.5 mg/L	6 h	ラット		

略語及び頭文字

Rat: ラット

症状 情報なし。

製品情報

経口 この化学物質又は混合物の特定試験データはない。

吸入 この化学物質又は混合物の特定試験データはない。

皮膚接触 この化学物質又は混合物の特定試験データはない。

眼接触 この化学物質又は混合物の特定試験データはない。

標的臓器影響 呼吸器。眼。皮膚。中枢神経系。

12. 環境影響情報

生態毒性

化学名又は一般名	藻類／水生植物	魚類	甲殻類
エチレングリコール	EC50: 6500 - 13000mg/L (96h, <i>Pseudokirchneriella subcapitata</i>)	LC50: >72860 mg/L (96h, <i>Pimephales promelas</i>)	EC50: >100 mg/L (48h, <i>Daphnia magna</i>)

残留性・分解性 情報なし。

エチレングリコール (107-21-1)

方法	ばく露時間	値	結果
OECD試験番号301C: 易生分解性: 修正MITI試験(I)(TG 301 C)	14 日	83-96% 生分解	易生分解性

生態蓄積性

成分情報

化学名又は一般名	分配係数
エチレングリコール 107-21-1	-1.36

土壌中の移動性	情報なし。
オゾン層への有害性	分類できない。利用可能なデータに基づき、分類基準を満たさない。
他の有害影響	情報なし。

13. 廃棄上の注意

残余廃棄物	現地の規則に従って廃棄すること。環境法律に従って廃棄物を廃棄すること。
汚染容器及び包装	空容器を再利用しないこと。
廃棄物処理	溶剤系インクとUV硬化型インクを混ぜないでください、可燃物と混合を回避するために予防策をとること

14. 輸送上の注意

IMDG	規制対象外
品名(国連輸送名)	Printing ink related material
説明	.?1 印刷用インク関連物質 .?2
MARPOL 73/78付属書II及びIBCコードによるばら積み輸送される液体物質	
情報なし	
ADR	規制対象外
品名(国連輸送名)	Printing ink related material
説明	.?1 印刷用インク関連物質 .?2
IATA	規制対象外
品名(国連輸送名)	Printing ink related material
説明	.?1 印刷用インク関連物質 .?2
日本	規制対象外
品名(国連輸送名)	Printing ink related material
説明	.?1 印刷用インク関連物質 .?2

15. 適用法令

国内規制

化学物質排出把握管理促進法(PRTR法)

詳細情報については項目3を参照

労働安全衛生法

製造禁止物質等

該当しない

製造許可物質等

該当しない

特定化学物質等(特化則)

該当しない

特別管理物質

該当しない

通知対象物質

法第57条の2、施行令第18条の2第1号、第2号別表第9及び第3号別表第3

危険性又は有害性等を調査すべき危険有害物

法第57条の3

表示対象物質

法第57条第1項、施行令第18条第1号、第2号別表第9及び第3号別表第3

皮膚等障害化学物質

化学名又は一般名	皮膚刺激	皮膚吸収
エチレングリコール	該当しない	該当

毒物及び劇物取締法

該当しない

消防法:

自己反応性物質、第5類、第1種、危険等級I、10kg

化学物質の審査及び製造等の規制に関する法律(化審法)

下表は、記載されている、該当すると考えられるカットオフ値を超える成分を示す

化学名又は一般名	CAS番号	化審法
エチレングリコール	107-21-1	優先評価化学物質

海洋汚染及び海上災害の防止に関する法律

該当しない

廃棄物の処理及び清掃に関する法律

該当しない

大気汚染防止法

大気汚染防止法第3条に排出基準が規定されている大気汚染物質

大気汚染防止法第2条、第4項で定める揮発性有機化合物

ご注意ください。化学物質名およびCAS番号は規制リストに記載されていると識別される場合がありますが、暴露経路や使用シナリオはDomino印刷製品には適用されない場合があります。

国際規制

残留性有機汚染物質に関するストックホルム条約 該当しない

ロッテルダム条約 該当しない

国際インベントリー

化審法インベントリ

インベントリー準拠状況については供給者まで問い合わせること。

ENCS - 化審法既存物質

16. その他の情報

改訂日

2026/06/11

改訂記録

***前回の発行以降に更新されたデータを示します。

安全データシートで使用されている略語及び頭文字のキー又は凡例

凡例 8: ばく露防止及び保護措置

TWA	TWA(時間加重平均)	天井値	最大限界値
Sk*	経皮吸収	+	感作性物質

本SDSの編集に使用した主要参考文献及びデータ源

米国毒性物質疾病登録庁(Agency for Toxic Substances and Disease Registry, ATSDR)

米国環境保護庁ChemViewデータベース

欧州化学品局

欧州食品安全機関(EFSA)

米国環境保護庁(Environmental Protection Agency)

急性ばく露ガイドラインレベル(AEGL)

米国環境保護庁、連邦殺虫剤、殺菌剤、殺鼠剤法

米国環境保護庁高生産量化学物質

フードリサーチジャーナル (Food Research Journal)

危険有害性物質データベース

国際統一化学情報データベース(IUCLID)

日本製品評価技術基盤機構(National Institute of Technology and Evaluation, NITE)

オーストラリア国家工業化学品届出審査機構(NICNAS)

NIOSH(米国労働安全衛生研究所)

米国医学図書館ChemID Plus(NLM CIP)

米国医学図書館のPubMedデータベース(NLM PubMed)

米国国家毒性プログラム(NTP)

ニュージーランド化学物質分類・情報データベース(CCID)

国際経済協力開発機構(International Organization for Economic Co-operation and Development, OECD)の環境、保健及び安全に関する出版物

国際経済協力開発機構(International Organization for Economic Co-operation and Development, OECD)高生産量化学物質プログラム

国際経済協力開発機構(International Organization for Economic Co-operation and Development, OECD)スクリーニング情報データセット

国際連合世界保健機関(World Health Organization, WHO)

免責事項

この安全データシートは、JIS Z 7253:2019 に準拠している。このSDSに記載されている内容は、発行日時点の知見、情報に基づき正確を期したものです。ここに記載されている情報は当該製品の安全な取扱い、使用、加工処理、保管、運搬、廃棄、漏えい(洩)時の処理など指針とすることのみを目的としたものであり、いかなる保証をするものではなく、また品質仕様ではありません。本文中に明記されている場合を除き、他の何らかの材料と組み合わせて使用した場合、又は何らかのプロセスに使用した場合には、有効でなくなる場合があります。

安全データシートのおわり